

住民と町をつなぐ議会であるため。あなたの声が町を動かす。

 大月町

議会だより

第112号

3月定例会

令和5年5月1日発行
高知県大月町議会



春
らんまん
入学式

P 2 榎西にグランピング施設整備

P 4 グラフで見る当初予算

ゼロカーボンシティ宣言・ふるさと応援寄付金

P 6 注目の予算審査

P 8 宅地造成アンケート結果





動き出せ、大月町。

檜西園地。

を提供するものです。

キャンプ施設整備事業

テント

檜西園地の南側に6 m×6 mのウッドデッキを3基建築し、その上にそれぞれテントを設置します。
宿泊人数は1棟4名までを予定。

施設について

駐車場エリアに受付を設置。
厨房機能も整備し、飲食営業も可能に。
テント持ち込みによるデイキャンプも有料化し管理を行います。

3月定例会の概要

3月定例会は9日から15日まで開かれ、当初予算9件、補正予算8件、条例11件、人事案件1件、その他2件の合計31件が提出され、承認・可決した。

一般会計当初予算は約51億円。前年比5億8千万円あまり減少。当初予算概要は4ページ、予算審査は6ページ。

発行によせて

議会だよりは平成7年第1号を発行。平成24年に「議会だより発行特別委員会」が発足。平成26年に「議会広報常任委員会」が発足。この伝統ある議会だより、長年愛読していただいている町民の皆様感謝を申し上げます。

議会だより編集委員会は何度も何度も協議を重ね、表紙の雰囲気柔らかくし、内容も町民によりわかりやすく、読みやすい議会だよりを目指していくことを確認しました。

より充実した議会だよりを目指します。今後ともご理解のうえ、よろしくお願いいたします。

議会広報常任委員長 依岡 一生

表紙写真によせて



私たちは夢と希望を胸にこの大月中学校に入学しました。

中学校の校章は、大月町章のデザインを基礎とし「World＝世界へ伸びていく」ことや「美しい大月の海の波」や「学習に励むペン先」の意味が込められていると聞きました。

これからの3年間、世界に羽ばたける人に育っていけるよう、常に感謝の気持ちを忘れず勉強に部活動に励んでいきます。
(インタビューより)

動き出せ、

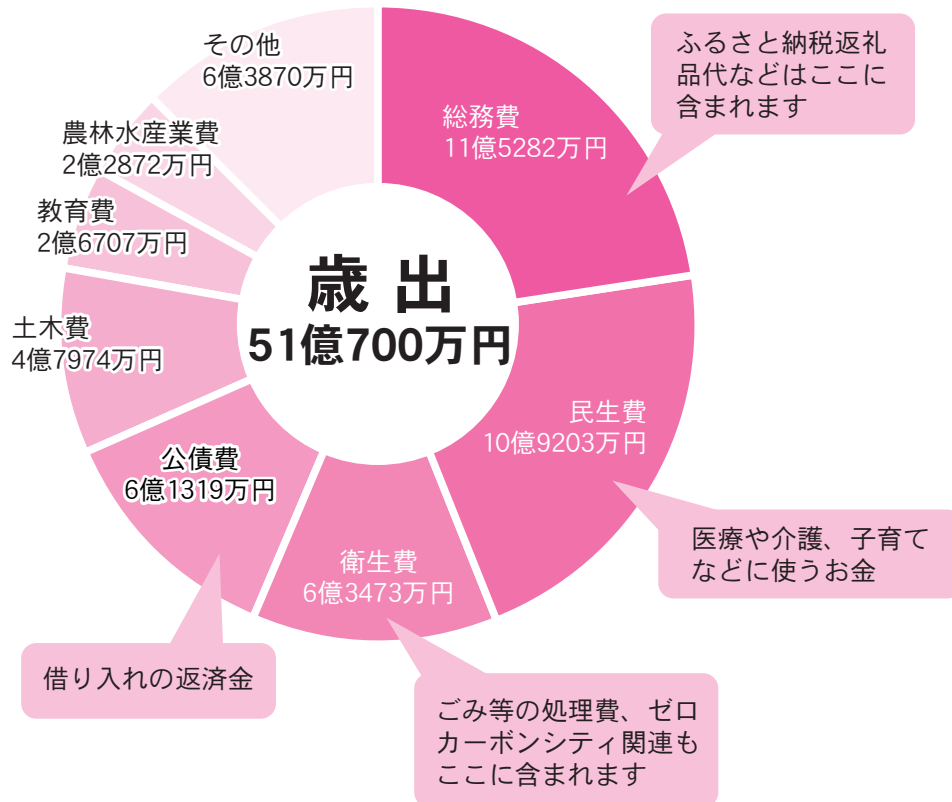
グランピングとは

良い所取りの優雅なアウトドア体験として、非日常感近年のアウトドアブームにより注目されています。

グランピング

予算総額 4500万円

令和 5年度 当初予算



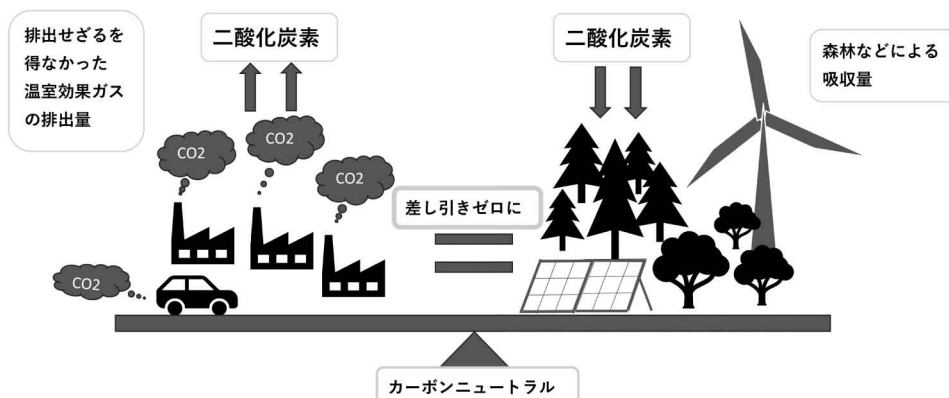
ゼロカーボンシティ宣言

「恵まれた自然を大切に、安らぎに満ちた美しい町を次の世代に繋げる」ため、町民・事業者・行政が一体となり、これまでの温暖化防止対策に資する事業を継続するとともに、取組みの基軸となる実行計画を策定し、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことをここに宣言いたします。

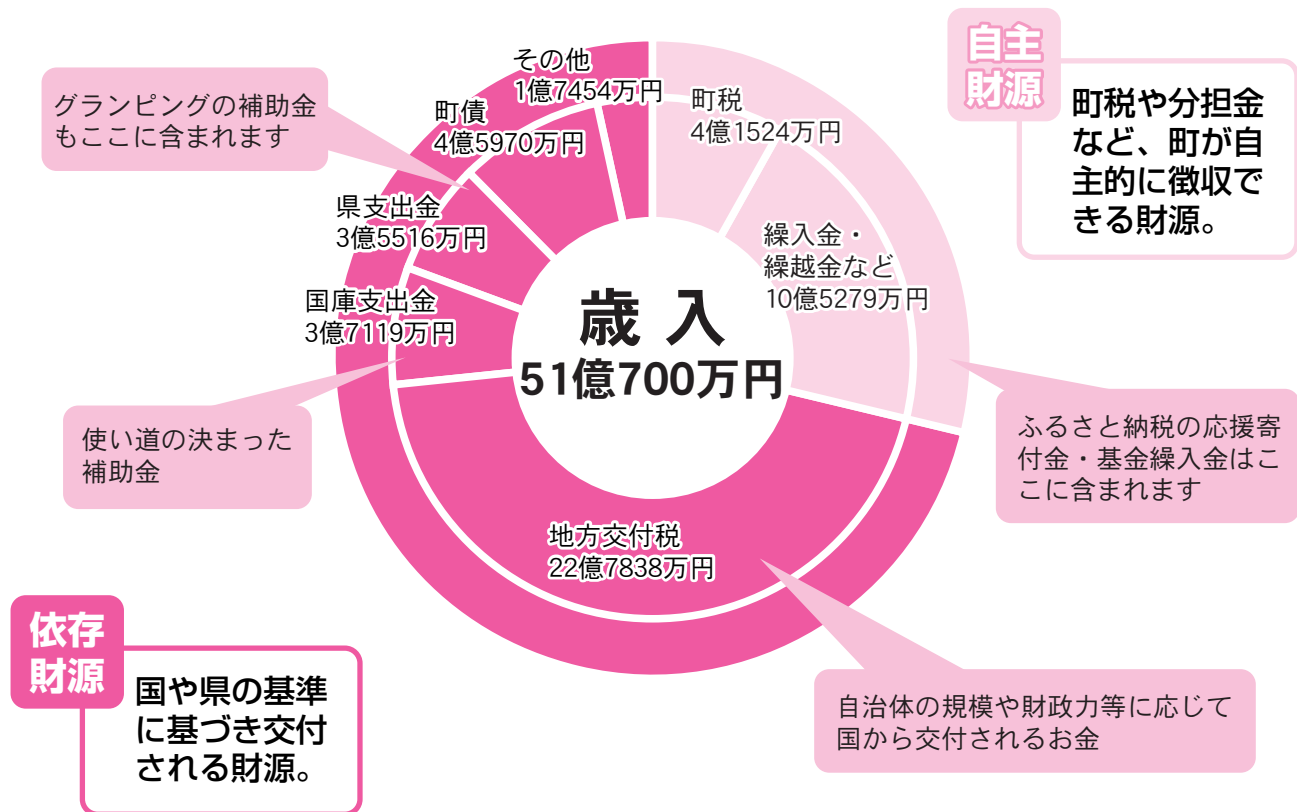
当初予算に計上し、計画実行。
2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする宣言。
幡多地域の全市町村が宣言となる。

関連質問→P 6

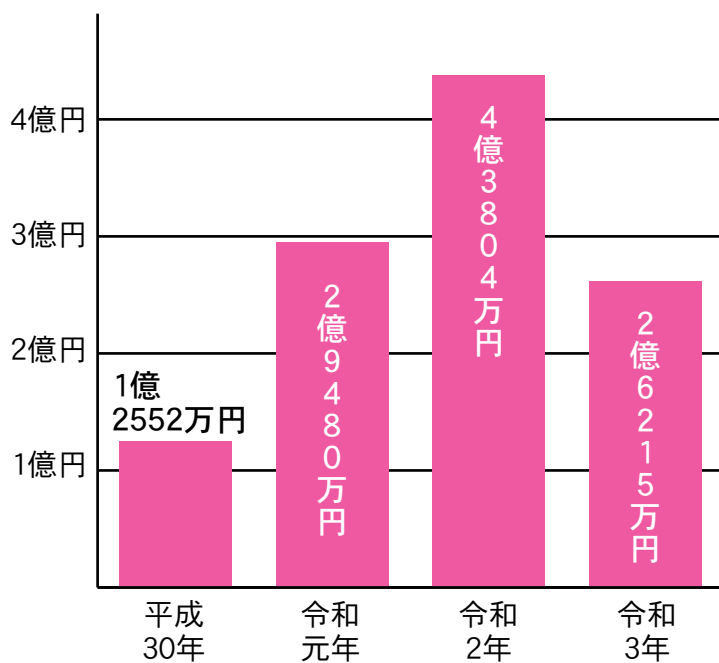
予算 2000万円



二酸化炭素排出
実質
ゼロの町へ



ふるさと応援寄付金は大幅に減少



ふるさと応援寄付金は国の施策で、本町にとっても大事な財源である。

令和3年4月に返礼品経費の割合見直しがあり、調達率が以前よりも低くなっている。

それが影響しているのは間違いないが、国の定める返礼品経費の割合を守ることが必須のため、商品の磨き上げに努める。

関連質問→P 7

主な寄付金の使い道

① 皆さんの熱い思いで大月をつくる事業

教育・子育て等

② ふるさとへの思いに応える事業

福祉・医療等

③ 働く人を支えるまちの発展事業

建設・産業振興・定住・雇用促進等

④ 心やすらぐ自然や風景を守る事業

公園・景観・防災・環境対策等

住民の願い



令和 5年度 予算審査

浦木
議員

災害から家を守る 補強等を補助

4112万円

【質問】 この費用の内容は

【答弁】 町から要請した専門の建築士が個別に訪問し無料で診断をし、希望する個人に支給します。

住宅の耐震診断に	560万円（16件）
耐震が必要になった工事に	1600万円（16件）
老朽化した木造住宅除去に	1645万円（10件）
ブロック塀対策に	307万円（15件）

令和5年度当初予算審査を2日間にわたり行いました。担当課より説明を受け、質疑を行ったのち、本会議にて全会一致で予算を可決しました。

浦木
議員

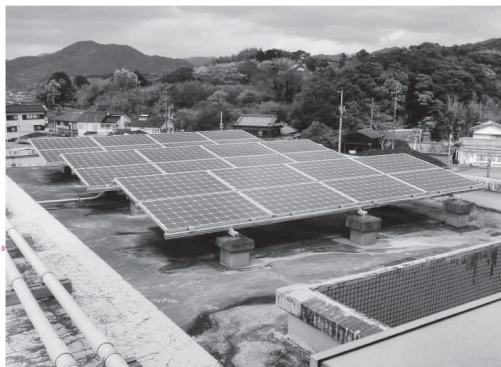
二酸化炭素排出ゼロ(ゼロカーボンシティ宣言)

2000万円

【質問】 この導入の説明を

【答弁】 太陽光発電の充実により二酸化炭素排出量を減らし、森林を育て二酸化炭素を吸収し、二酸化炭素排出量ゼロをめざし委託するものです。太陽光発電は公共施設50%をめざします。

地球温暖化対策実行計画に	1000万円
太陽光発電設備等導入調査に	1000万円



中田
議員

人づくり関連予算

【質問】 大月町第7次総合振興計画の大きな柱である「人づくり」は、今や教育委員会が大きな役割を担っている。「高知大学出前講座」や「おとなの学校」の開催は非常に素晴らしい取り組みだと思う。より多くの人に参加してもらい、そこで勉強していくことで若い世代の意識の向上を図っていくためにも、社会教育費にもっと予算をつけるべきではないか。

【答弁】 まずは足元の大月町を知ってもらおうという目的で開催しています。来年度以降の事業計画の中で考えていきます。



住みやすさこそ

安原
議員

ふるさと
応援寄付金 7679万円

【質問】 ふるさと応援寄付金は2億5千万円が計上されている。それに対するふるさと応援寄付金謝礼品費は7679万6千円。総務省の返礼品30%の割合からすると多いが理由は。

【答弁】 ふるさと振興公社に支払う7%の手数料も含めての金額のため、予算上は3割を超えています。

野村
議員

道路維持費 100万円

【質問】 町道草刈講習受講費負担金の内容は

【答弁】 道路維持管理の際、草刈り機を使う人全員が講習を受けていないと使用ができないのでこの講習費用を町が負担するものです。（一人約8,250円で基本的に地区に受講してもらうが30人から70人を目途に1または2回開催予定）

安心して過ごせる老後を

浦木
議員

認知症予防
アプリ 132万円

【質問】 この委託料の説明を

【答弁】 家庭に設置している120台分を使い、認知症予防に脳トレーニングをしてもらうためのソフトの設置を委託するものです。

認知症予防アプリ初期設定委託料 99万円
認知症予防アプリライセンス委託料 33万円

安岡
議員

高齢者対策 284万円

【質問】 ヘルパー定着の支援金は

【答弁】 ホームヘルパー人材確保のための委託料。テキスト代・受講料無料（町内在住者）

【質問】 高齢者施設等従事者定着支援金とは

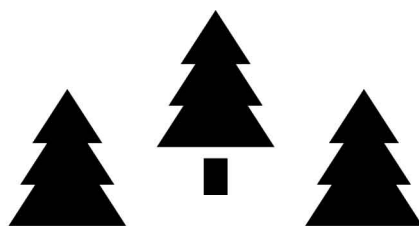
【答弁】 高齢者施設で働く人材確保を図るための支援。
常勤（1名につき20万円） 3名
非常勤（1名につき10万円） 5名

中田
議員

作業道補助予算の拡充

【質問】 将来的に山林を管理していくための小規模林業従事者の育成は必要はらず。検討すると言っていた「作業道補助の拡充」が予算化されていない理由は。

【答弁】 令和5年度の予算化は、近隣市町村とのバランスを考慮して計上しませんでした。今後の検討課題であるという認識は持っています。



健全な山は
土砂災害を防ぎ
二酸化炭素を吸収します

総務厚生常任委員会の提言活きる

集計結果

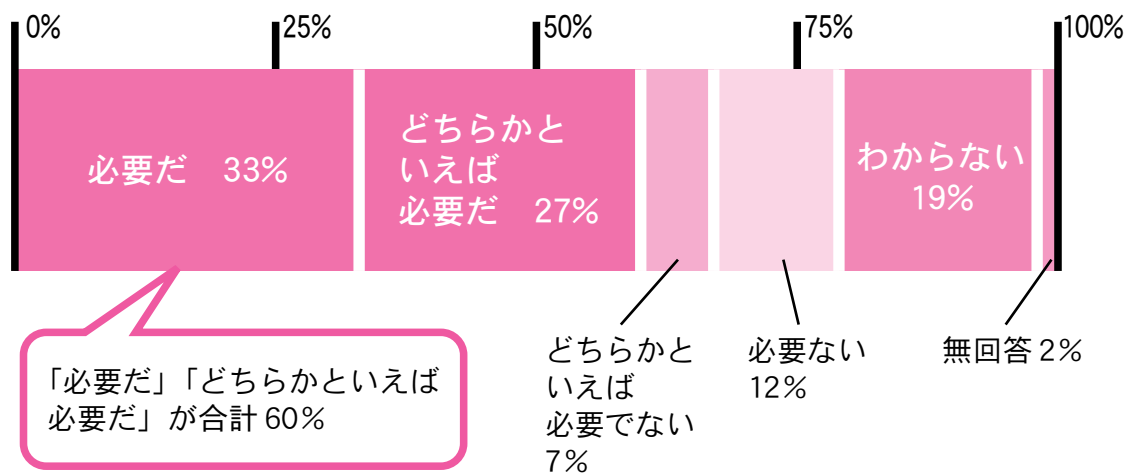
宅地造成に関するアンケート

令和3年度9月定例会において総務厚生常任委員会が提言した「宅地造成（若者定住対策）」のひとつ「住民アンケート」が令和4年9月に行われ、結果の集計が報告されました。

配布数 1,015 通に対し、有効回収 296 通。有効回収率 29.1%です。有識者によると、郵送アンケートにおける回収率としては問題のない数字だそうです。

令和5年度は管理職によるプロジェクトチームを立ち上げ、専門家を招いて知識の習得から始めていく予定です。

宅地造成のニーズについて



必要だと考える理由

- 18% ①アパートが少ないから
- 14% ②移住者も増えるから
- 12% ③土地がないから
- 11% ④若い人が増えるから
- 7% ⑤町営住宅が老朽化しているから
- 6% ⑥地震・津波の心配があるから
- 5% ⑦家を建てたいから
- 3% ⑧その他

必要ないと考える理由

- 9% ①他にやるべきことがあると思うから
- 8% ②空き家があるから
- 3% ③土地はあるから
- 2% ④無回答
- 1% ⑤家を建てるお金がないから
- 1% ⑤その他
- 0% ⑦アパートがあるから
- 0% ⑦町営住宅があるから

必要な理由としては、アパートが少ないこと、次いで移住者が増えるメリットが挙がっています。個人で土地を探すことはハードルが高く、町民も移住者も定住しやすくなると考えます。

「必要だ」「どちらかといえば必要だ」が合計 60% もあり、宅地造成の必要性の高さが伺えます。

産業建設常任委員会 経過報告

調査項目 働き場の創出（人口減少問題）

大月町が大きな課題である「人口減少問題」に取り組むなか、総務厚生常任委員会が「宅地造成に取り組むべき」と行政に提言し、行政もアンケート調査を行うなど動きを見せはじめた。

産業建設常任委員会も、森林率 78% という豊富な森林を活かした「林業」にターゲットを絞って調査を開始した。



森林経営管理法及び森林環境譲与税（平成 31 年 4 月 1 日施行）の導入により、市町村の森林行政に大きく影響を与えている。また、まち・ひと・しごと創生法（平成 28 年 4 月 1 日施行）により、市町村に総合戦略策定が義務付けられ、自治体が具体的に施策を展開できるよう様々な交付金が提供されるようになった。これらによって新たな事業の展開や森林・林業を基礎とした地域の立て直しの活動が広がっていく可能性が生まれている。

大月町の森林施策においては、国による上記の動向等により、森林組合が担う役割が大きくなっていくと判断し、高性能林業機械への支援や森林プランナーの育成を図ると同時に自伐等新規就労者への支援体制を整えるよう努めている。しかしながら、いずれも就業者の数が少なく、このままでは健全な森林を維持していくことは非常に困難である。

現在、町が行っている森林所有者への意向調査が一定終了すれば、今より森林整備をする人が必要になってくることは火を見るよりも明らかであり、本委員会も林業従事者を増やしていくことに努めている。

陳情 畜産危機打開のための緊急対策を求める意見書

提出された陳情書を全会一致で可決し、以下を要望する意見書を各省庁に送付しました。

1. 配合飼料価格安定制度への国の拠出を増額すること
2. 飼料高騰前の価格との差額を全額補填すること
3. 畜産農家を救済する新たな補助・融資制度など金銭面での支援策を緊急に整備すること
4. 子どもの成長と国民の健康維持に不可欠な牛乳は国内で生産すること
5. 日本の農畜産業を守るため、乳製品の輸入量を削減し、生乳の生産抑制を行わないこと
6. 政府の責任において乳製品を買い上げ、人道支援等を行うこと
7. 生産抑制を行う際には、生産者への十分な補填を行うこと



事案件

選挙管理委員・選挙管理委員補充員

任期満了による選任。
任期は令和5年3月25日より4年間。

● 選挙管理委員補充員

- 西村 初美 氏
- 岩崎 晶功 氏
- 内原 進子 氏
- 平田 彰彦 氏
- 安岡 利治 氏
- 新谷 雄三 氏
- 亀井 紀美子 氏
- 依岡 弘祐 氏
- 選挙管理委員

教育委員

任期満了による選任。
任期は令和5年4月1日より4年間。



● 奥田 宝 氏

議

案の議決内容

令和5年度 当初予算	一般会計・特別会計	全員賛成
令和4年度 補正予算	一般会計・特別会計	全員賛成
人 事	教育委員	全員同意
条例など	議員・非常勤職員公務災害補償条例 人権尊重のまちづくり条例(一部) 国保条例 ほか全11件	全員賛成

副議長改選

安岡 邦彦

この度、前副議長の辞任に伴い、副議長に推挙され、就任をいたしました。

前副議長である山本恒和氏の遺志を引き継ぎ、議会改革に取り組んでまいります。

町民の皆様よろしくお願いいたします。

一般質問を定例会後に 放送しています

新告知端末の方は  のボタンから、

定例会の翌週末頃～次回定例会の前月末までいつでもお聞きいただけます。

旧告知端末の方は定例会の翌週頃に放送されるお知らせで放送時間をご確認の上、お聞き下さい。



久米 里志 議員

ワクチンの補助

高齢者へのワクチン接種補助は

現時点では難しい／町長

問 高齢者の方が、健康で安心して暮らすために、65歳以上の高齢者に肺炎球菌ワクチン接種の2回目の任意接種や、带状疱疹の任意接種への補助金の検討は。

岡田町長 本町は国の制度に基づいて、実施する定期接種にも公費を負担しています。任意接種については、2回目以降の肺炎球菌ワクチン接種だけでなく、他にも64歳以下のインフルエンザワクチンや、おたふくかぜのワクチン等の任意接種が多いため、現状では難しいです。



若者の人材確保を目指せ

人材不足解消

若い世代の人材確保は

積極的に取り組む／町長

問 大月町では、若い世代の人材不足で、各事業の運営が出来なくなる現況があり、大変重要な喫緊の課題となっているが、今後の対策は。

岡田町長 現在、人材確保の取り組み状況につきましては、漁業・農業・林業各分野で、県及び幡多広域市町村や関係機関と連携を取りながら人材確保に努めています。本当に厳しい状況ですが、一歩踏み込んで、連携を進めながら積極的に取り組んでいきます。

住民生活向上

新規告知端末の進捗・利用状況は

ほぼ完了・個別に対応／町長



問 新たな告知端末の設置の進捗状況と利用状況は。

岡田町長 入れ替え実施の個別調査で、単身世帯は施設への入所や町外での生活実態が明らかになり、取り替え要件を拡大し、75歳以上の方が含まれる所帯を含め取り替えはほぼ完了しています。

新I P告知端末の利用状況は、多機能で使い方が分からないとの声が届いています。個別の問い合わせで対応していきます。新年度には、地区の体操教室や健康相談などの各事業において使い方の指導をしていきます。



桧西園地展望。
手前にグランピング施設設置。

観光開発と条件整備

大月町の方角性は 長期滞在型をめざす／町長



浦本 秀雄 議員

問 観光施策としての大月町の方角性は。

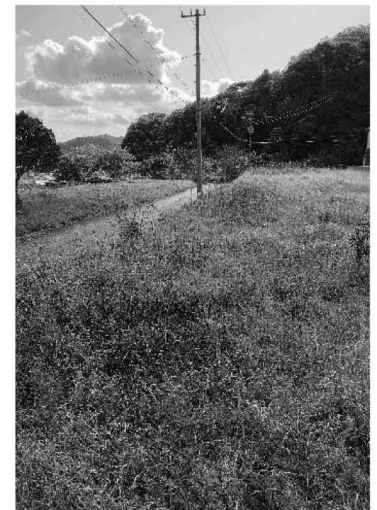
岡田町長 令和元年に策定しました「大月町観光地連携計画」に基づいて事業を取り組んでいます。現状は、入り込み客が柏島一極集中の傾向にあるので分散し、将来は、長期的滞在型観光、宿泊施設の整備、地域でお金を落としていただく仕組みづくりを目指しています。

問 桧西園地のグランピング施設、大洞山の展望台、大月町商店街の道路について進捗状況は。

まちづくり推進課長 桧西園地のグランピング施設は、付加価値の高いキャンプ体験をしていたたく施設です。第1弾として4千5百万円の事業を実施します。令和5年度中に町民の雇用には至りません。

岡田町長 大洞山の展望台は、利用者の減少や町の財政的な状況も考えると、やりたいだけでは実施できない事情もありましたが、整備していくという考えは持っています。

大月町商店街の道路は、用地の立会に帰っていただけるところまで話がどうしてもまだ進んでいません。早急に地権者の方に合わせてご理解をいただき、県と協議しながら、完成の方向に向けて取り組んでいきます。



宅地造成イメージ

若者定住対策と宅地造成

宅地造成の方角性は

まちづくりの計画で／町長

問 若者定住に向けて、宅地造成をどのような方向で進めようとしているのか。

岡田町長 令和5年度当初にまちづくりの全般に関するチームの立ち上げを計画しています。その中でさらに、分科会の形でプロジェクトチームを編成し、各課題を掘り下げて検討していきます。

まず専門家を招へいして計画の軸を作成し、他の自治体への視察研修など、実務レベルでの検討を行うこととしています。将来のまちづくりに基づいた造成場所の選定や造成規模・事業経費など、財源など一定の情報収集した後、民間を含めた専門委員会を立ち上げて具体的にしていきたいと考えています。

会計年度職員

処遇改善策は

国に準じて／町長

問 会計年度任用職員の処遇改善は。

岡田町長 全職員に占める会計年度任用職員の割合は37%です。

勤勉手当の支給を可能とする法案が通常国会に提出され、早ければ令和6年4月の施行を目指すとしています。本町も国に準じて適切な対応を取るよう検討していきます。

病休などの処遇改善は、医療費を支払った額のうち1件2万5千円までの額につき、6千円の控除した額が支給されるなどの制度があります。各種制度の確認をしていただければと思います。



中田 巖 議員

補助金の獲得

町が積極的に動くべき

より一層努力する／町長

岡田町長 現在、町で行っている各種事業については、ほとんどの事業に国費・県費補助金がついています。さらに有益な情報、有益な補助金の活用に向け、各課連携強化を強め、適切に補助事業を進め、健全な財政運営に努めていきます。

岡 お金は使えば無くなるが知恵はいくら使っても無くならない。町が必要とするものや住民サービスをより向上させるために、受け身の姿勢ではなく、もっと攻めの姿勢で補助金の獲得に動くべきではないか。



知恵を出し合おう

岡田町長 建設にあたり一番の課題となるのは原料の調達です。近年は、発電出力が1,000キロワット未満の超小型バイオマス発電の開発も進んでおり、発電効率が低く、熱電併給でなければ採算が合わない等の課題もあります。バイオマス発電メーカーの動向そして国・県の施策

岡 小型木質バイオマス工場は、町内林業従事者の非常に有益な取引先となり得るだけでなく、災害等による緊急時のエネルギー供給ができるという備えにもなる。工場の建設に向け、共に汗をかいていくつもりはないものか。

岡 小型木質バイオマス工場は、町内林業従事者の非常に有益な取引先となり得るだけでなく、災害等による緊急時のエネルギー供給ができるという備えにもなる。工場の建設に向け、共に汗をかいていくつもりはないものか。

バイオマス工場

脱炭素社会に向けて

原料調達が課題／町長

などについて注視していく所存です。

岡 大月町もゼロカーボンシティ宣言をした。この動きにすぐ期待をしている。今こそ小規模林業従事者を積極的に育てていく機運にあると考えるが、町長の考えは。

岡田町長 林業の振興につきましては必要ない状態があると思っています。しかし我々は絶

健全な森林を維持するために



執行部の姿勢

議会の声は住民の声

これを契機にする／町長

対に失敗は許されません。国・県の支援に加え、大月町で何トン確保できるかという具体的なものを踏まえて注視していかなければならないと思っています。

岡 本会議で質問した内容に対して明確な答えが返っていないにも関わらず、そのまま執行されているという案件がある。あまりにも本会議や議会を軽視している指摘されても過言ではない。

住民の声を背負って本会議に挑んでいる議員の声はその程度のものなのか。町長の考えを聞く。

岡田町長 これからはこの質問を契機に、そういうことが無いように私も努力していきます。今後ともそういった事案につきましては、抜けていけばまた議会の方から指摘していただき、またこちらからも報告させていただきたいと思っています。で、これからのそのような連携で取り組まさせていただきますというお願いを申し上げます。

／にんにちは／ 持続可能な農業を めざして

まさのり
ファーム森の里 代表理事 岩崎 晶功さん



**持続可能な農業を
目指して**

春遠地区では、先人の方々の努力のお陰で地区のほとんどが土地改良されており、作業の効率化を図ることが出来るようになっていきます。

本格的事業開始

集落営農組織は20年
来の検討課題でしたが、
やっと平成30年に任意
組織ができ、令和2年
「農事組合法人ファーム森の里」として本格的に事業を始めました。
作業は、専業で関わ
れるのは私だけで他は
会社員などで、土日が
メインで作業をしてい
ます。

最新機械導入

お米の防除作業は、
ドローン導入により1
ヘクタール3人で10分
程度で農薬の散布がで
きるようになり、作業
効率が飛躍的に向上し
ました。

また、光センサーで
不良米を選別できる最
新機械を導入し、お米
の食味がとても良くな
ったと喜ばれるように
なるなど、地区内外の
作業委託にも対応でき
るようになりました。

6次産業化を視野に

今後は、お米以外の
作物の栽培や6次産業
化も視野に入れながら
次世代にバトンを渡せ
るように頑張っていき
ます。

他の地域と連携

相変わらず人手不足
の解消はできていませ
んが、地区以外での雇
用も募集しながら地域
全体を網羅出来るよう
皆で協力していけたら
と考えています。

(取材 野村満久)



ドローンで作業効率アップ

編集後記

今年の3月、山本恒和さんが現職のまま亡くなった。心からお悔やみを申し上げたい。彼と私は、同期で議員になり3期目を勤めていた。彼は、議会だよりの編集委員長を務めるなど仕事熱心で誠実な方であった。

議会だよりの編集委員会に、いつもいる人がいなくなったのはさびしい。しかし、それを乗り越えて、よりよい議会だよりにしていくことこそ彼の願いだ、と考える。編集委員一同、気を引き締めて取り組みたい。

(浦木 秀雄)

議会広報常任委員会

委員長 依岡 一生
副委員長 野村 満久
委員 中田 巖
委員 浦木 秀雄

発行／高知県大月町議会
編集／議会広報常任委員会

高知県幡多郡大月町弘見2230
TEL(0880)73・1682

印刷 有限会社 宿毛印刷